

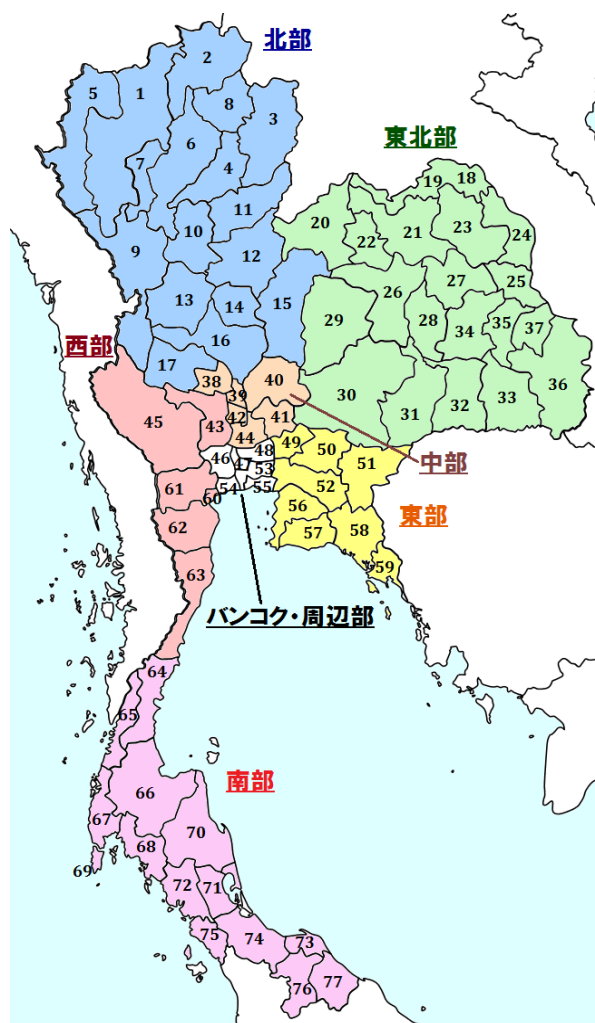
第24章 地域別の概要

1. タイの地域分類

タイの地域区分には何通りかの分け方がある。人々の感覚では、タイ全土を北部、東北部、中央部、南部の4つの地域に分ける場合もあるが、一般的には中央部をさらに東部、中部、西部、バンコク首都圏に分類し、統計もこれら7地域の分類に基づき発表されている（図表 24-1）。

図表 24-1 タイの県名と所在地

北部地方		
1	チェンマイ	Chiang Mai
2	チェンラーイ	Chiang Rai
3	ナーン	Nan
4	プレー	Phrae
5	メーホンソーン	Mae Hong Son
6	ランパーン	Lampang
7	ランブーン	Lamphun
8	パヤオ	Phayao
9	ターク	Tak
10	スコータイ	Sukhothai
11	ウッタラディット	Uttaradit
12	ピサヌローク	Phitsanulok
13	カンペンベット	Kam Phaeng Phet
14	ピチット	Phichit
15	ベツチャブーン	Phetchabun
16	ナコンサワン	Nakhon Sawan
17	ウタイターニー	Uthai Thani
東北部		
18	ブンカーン	Bueng Kan
19	ノンカーイ	Nong Khai
20	ルーイ	Loei
21	ウドンターニー	Udon Thani
22	ノンブアランブー	Nong Bua Lamphu
23	サコンナコン	Sakon Nakhon
24	ナコンパノム	Nakhon Phanom
25	ムクダーハーン	Mukdahan
26	コーンケン	Khon Kaen
27	カーラシン	Kalasin
28	マハーサーラカム	Maha Sarakham
29	チャイヤブーム	Chaiyaphum
30	ナコンラーチャシーマー	Nakhon Ratchasima
31	ブリラム	Buri Ram
32	スリン	Surin
33	シーサケート	Si Sa Ket
34	ローイエット	Roi Et
35	ヤソートン	Yasothon
36	ウボンラーチャターニー	Ubon Ratchathani
37	アムナートチャルーン	Amnat Charoen
中部地方		
38	チャイナート	Chai Nat
39	シンブリー	Singburi
40	ロップリー	Lop Buri
41	サラブリー	Saraburi
42	アーントーン	Ang Thong
44	プラナコンシーアユタヤ	Phra Nakhon Sri Ayuthaya



バンコク首都圏					
46	ナコンパトム	Nakhon Pathom	60	サムットソンクラーム	Samut Songkhram
47	ノンタブリー	Nonthaburi	61	ラーチャブリー	Ratchaburi
48	パトゥムターニー	Pathum Thani	62	ベッチャブリー	Phetchaburi
53	バンコク	Bangkok	63	ブラチュワブキリーカン	Phachuap Khiri Khan
54	サムットサーコン	Samut Sakhon	南部地方		
55	サムットプラカーン	Samut Prakan	64	チュムボン	Chumphon
東部地方			65	ラノー	Ranong
49	ナコンナーヨック	Nakhon Nayok	66	スラートターニー	Surat Thani
50	プラチンブリー	Prachin Buri	67	バンガー	Phangnga
51	サケーウ	Sa Kaeo	68	クラビー	Krabi
52	チャチュンサオ	Chachoengsao	69	ブーケット	Phuket
56	チョンブリー	Chon Buri	70	ナコンシータマラート	Nakhon Si Thammarat
57	ラヨーン	Rayong	71	パッタラン	Phatthalung
58	チャンタブリー	Chanthaburi	72	トラン	Trang
59	トラート	Trat	73	パッターニー	Pattani
西部地方			74	ソングラー	Songkhla
43	スパンブリー	Suphan Buri	75	サトゥーン	Satun
45	カーンチャナブリー	Kanchanaburi	76	ヤラー	Yala
			77	ナラティワート	Narathiwat

(出所) アジア経済研究所「アジア経済動向年報」を基に作成

タイの国土面積は約 51.3 万 km² (日本の約 1.4 倍)。バンコク首都圏の面積は国土の 1.5% しかないが、人口ではタイ全体の 25.0%、経済規模 (名目 GDP) では同 47.7% を占めている。また、一人あたり GDP でみるとバンコク首都圏とともに、東部も経済規模が大きいことが分かる (図表 24-2)。大手製造企業の本社や金融機関が多く所在するバンコク首都圏や、製造企業の生産拠点多い東部の 2 地域で、タイの名目 GDP の 65.7% を占めている。

一方、面積の約 3 割ずつを占める東北部や北部は、経済規模では各々 1 割弱に留まっている。西部や南部も同様に、経済規模の比率は相対的に低くなっている。

図表 24-2 地域ごとの面積、人口、名目 GDP (2023 年)

	面積		人口		名目 GDP		一人あたり GDP
	(km ²)	(構成比)	(1,000人)	(構成比)	(10億バーツ)	(構成比)	(バーツ)
全国	513,120	(100.0%)	70,043	(100.0%)	17,955	(100.0%)	256,338
バンコク首都圏	7,762	(1.5%)	17,543	(25.0%)	8,570	(47.7%)	488,524
中部	16,593	(3.2%)	3,169	(4.5%)	882	(4.9%)	278,223
東部	36,503	(7.1%)	6,499	(9.3%)	3,229	(18.0%)	496,855
西部	43,047	(8.4%)	3,656	(5.2%)	637	(3.5%)	174,198
北部	169,644	(33.1%)	11,168	(15.9%)	1,391	(7.7%)	124,540
東北部	168,855	(32.9%)	18,217	(26.0%)	1,808	(10.1%)	99,271
南部	70,715	(13.8%)	9,791	(14.0%)	1,438	(8.0%)	146,828

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

2. 県別の 1 人あたり GDP

図表 24-3 では、国家経済社会開発委員会 (National Economic and Social Development Board) の統計に基づいた県別の 1 人あたり GDP (2023 年) を階層別に表している。

これによると、1 人あたり GDP が相対的に高い地域は、バンコク首都圏、工業団地の多い東部

などとなっている。他方、相対的に低い地域は、ラオスやカンボジアの国境に近い東北部、観光都市チェンマイや電子部品等の製造業が工業団地に進出しているランブーンを除いた北部となっている。

図表 24-3 県別 1 人あたり GDP (2022 年)

地域	県名	一人あたりGDP (Baht)
北部 地方	チェンマイ	154,925
	チェンラーイ	102,988
	ナーン	89,515
	プレー	91,324
	メーホーンソーン	69,828
	ランパーン	107,732
	ランブーン	236,619
	パヤオ	109,275
	ターク	121,537
	スコタイ	93,208
	ウッタラディット	120,720
	ピサヌローク	124,884
	カンペンベツ	155,404
	ピチット	105,054
	ベッチャブーン	100,936
	ナコンサワン	139,184
	ウタイターニー	123,946
東北部 地方	ブンカーン	84,021
	ノンカーイ	107,589
	ルーイ	117,624
	ウドンターニー	100,005
	ノンブアランブー	69,008
	サコンナコン	78,895
	ナコンパノム	96,731
	ムクダーハーン	72,251
	コーンケー	131,987
	カーラシン	84,785
	マハーサーラカム	90,996
	チャイヤブーム	85,951
	ナコンラーチャシーマー	137,864
	ブリラム	91,636
	スリン	89,852
	シーサケート	91,060
	ローイエット	82,491
	ヤソートン	77,376
	ウボンラーチャターニー	82,895
	アムナートチャルーン	85,707
中部 地方	チャイナート	157,159
	シンブリー	151,750
	ロップブリー	152,831
	サラブリー	344,734
	アーントーン	135,248
	プラナコンシーアユタヤ	428,870
バン コク 首都 圏	ナコンパトム	316,636
	ノンタブリー	214,515
	パトゥムターニー	246,463
	バンコク	675,979
東部 地方	サムットサーコン	374,056
	サムットプラカーン	320,294
	ナコンナーヨック	126,435
	プレーチンブリー	388,559
	サケーウ	82,526
	チャチュンサオ	490,005
西部 地方	チョンブリー	592,335
	ラヨーン	942,205
	チャンタブリー	253,522
	トラート	164,835
	スパンブリー	124,482
	カーンチャナブリー	153,662
南部 地方	サムットソンクラーム	167,164
	ラーチャブリー	231,516
	ベッチャブリー	156,719
	ブラチュワブキーリーカン	221,151
	チュムボーン	230,319
	ラノーン	99,331
	スラートターニー	188,181
	パンガー	229,213
	クラビー	174,058
	ブーケット	314,921
	ナコンシータマラート	127,405
	パッターン	87,098
	トラン	111,746
	パッターニー	83,369
	ソンクラ	147,790
	サトゥーン	110,312
	ヤラー	108,108
	ナラティワート	64,005

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

3. 地域別の経済動向

(1) 地域別 GDP 構成比

2023 年の名目 GDP を基にすると、地域ごとの内訳はバンコク首都圏が 47.7%と最も大きく、その他の地域は、中部が 4.9%、東部が 18.0%、西部が 3.5%、北部が 7.7%、東北部が 10.1%、南部が 8.0%となっている(図表 24-4)。2000 年以降の推移は、バンコク首都圏の構成比は 01 年の 51.4%をピークに低下し、洪水の影響のあった 11 年から 12 年は 43.5%にまで落ち込んだが、その後は再び上昇し、47.7%まで回復している。

バンコク首都圏の重要性が近年益々高まっている中で、タイ全国の名目 GDP に占める比率を地域と産業のマトリックスでみても、製造業や第 3 次産業を中心に、バンコク首都圏の各産業の規模が大きいことが窺える。その他の地域で比率が高いのが「第 1 次産業」での北部、東北部、南部、「製造業」の中部、東部、東北部、「卸売・小売業」の東部、東北部、「教育・科学技術」の東北部である。

図表 24-4 地域別にみた名目 GDP の産業別構成比（全国=100%）

	全国	バンコク 首都圏	中部	東部	西部	北部	東北	南部
全体	100.0%	47.7%	4.9%	18.0%	3.5%	7.7%	10.1%	8.0%
第 1 次産業	8.6%	0.3%	0.4%	1.1%	0.8%	1.9%	2.1%	1.9%
農林水産業	8.6%	0.3%	0.4%	1.1%	0.8%	1.9%	2.1%	1.9%
第 2 次産業	33.0%	11.2%	2.9%	11.7%	1.2%	1.9%	2.6%	1.6%
鉱業	2.0%	0.0%	0.1%	1.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%
製造業	25.0%	9.5%	2.3%	8.9%	0.7%	1.1%	1.7%	0.8%
公益業	3.6%	0.8%	0.4%	1.3%	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%
（電気・ガス）	3.2%	0.6%	0.4%	1.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%
（水道）	0.4%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
建設業	2.4%	0.9%	0.1%	0.3%	0.1%	0.3%	0.4%	0.3%
第 3 次産業	58.5%	36.3%	1.7%	5.2%	1.6%	3.9%	5.4%	4.4%
卸売・小売	15.8%	9.8%	0.5%	2.0%	0.4%	1.0%	1.3%	0.9%
ホテル・レストラン	5.3%	3.6%	0.0%	0.5%	0.1%	0.2%	0.1%	0.8%
運輸・倉庫	5.0%	3.0%	0.2%	0.7%	0.1%	0.2%	0.3%	0.5%
情報・通信	2.8%	2.5%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
金融	8.9%	6.0%	0.2%	0.5%	0.2%	0.6%	0.8%	0.5%
不動産	2.6%	1.1%	0.1%	0.3%	0.1%	0.3%	0.4%	0.3%
公共・防衛	7.5%	5.0%	0.2%	0.6%	0.2%	0.4%	0.5%	0.5%
教育・科学技術	5.9%	2.7%	0.2%	0.3%	0.2%	0.7%	1.3%	0.6%
その他	4.7%	2.7%	0.1%	0.3%	0.1%	0.4%	0.6%	0.4%

(注) タイ全国の GDP に占める比率が 1.2%を上回っている産業・地域を黄色、0.2%を下回っている産業・地域は青色でシャドーしている。

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

(2) 地域別の産業構造の特徴

①バンコク首都圏（2023 年名目 GDP 構成比：47.7%）

バンコク首都圏は、タイの GDP の約半分が集中している。産業別（図表 24-5 参照、以下同様）では、他地域に比べて第 3 次産業の比率が高い（76.0%）。第 3 次産業では特に「卸売・小売」、「情報・通信」、「金融」、「公共・防衛」産業が経済を牽引している。

②中部（同：4.9%）

中部の特徴は、製造業を中心とした第 2 次産業の比率が 58.5%と、全国平均（33.0%）を大幅に上回っていることにある。製造業の中でも構成比が高まっている自動車産業（主に自動車部品メーカー）や家電メーカーが集積している影響が表れている。

③東部（同：18.0%）

東部は、中部以上に第 2 次産業の構成比が高い（64.8%）。製造業の中でも構成比が高まっている自動車産業（主に完成車メーカー）や化学産業が集積している影響が表れている。

④西部（同：3.5%）

西部の特徴は、バンコク首都圏に比較的近いにもかかわらず、第 1 次産業の構成比が 23.2%と全国平均（8.6%）を大きく上回っていることにある。また、第 2 次産業の構成比が 32.5%となっており、この内の 7.4%を公益業が下支えしている状況にあり、製造業（19.3%）の育成は比較的遅れている。

⑤北部（同：7.7%）

北部の特徴は、第 1 次産業の構成比が 24.9%と全国平均（8.6%）を大幅に上回っていることにある。ランブーン県を中心に小型高付加価値の電子部品産業が多く進出しているが、アクセス（陸運、空運）が他地域に比べて劣ることもあり、第 1 次産業（主に農林業）が中心である。

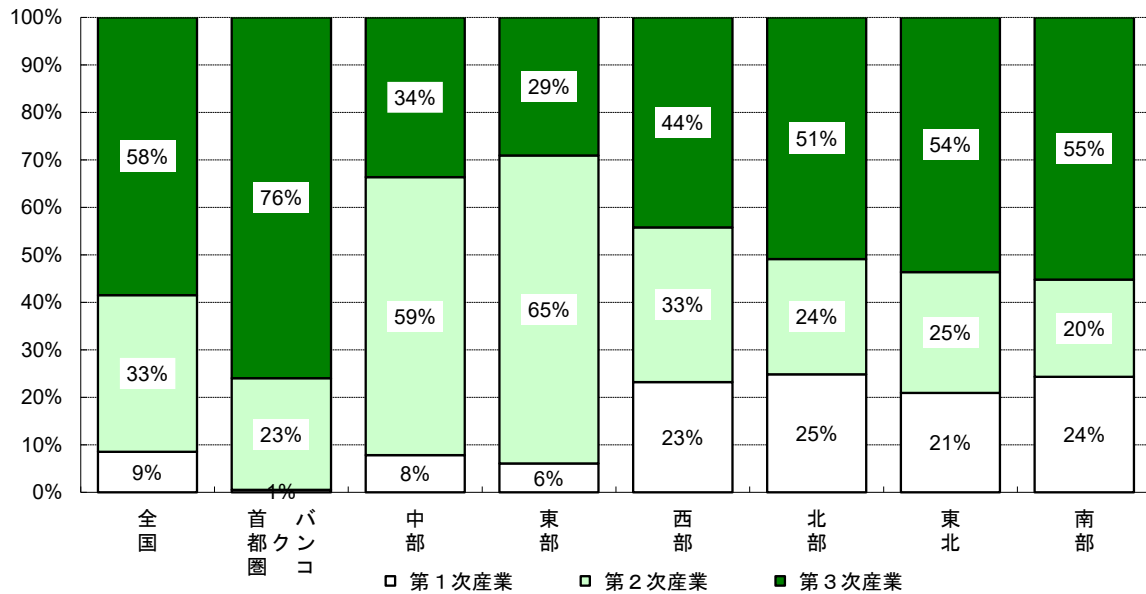
⑥東北部（同：10.1%）

東北部の産業構成は北部と同様に第 1 次産業（21.0%）の比率が高い。

⑦南部（同：8.0%）

南部は農林業に加え漁業も盛んであり第 1 次産業の構成比が 24.3%と最も高く、観光都市も多いため「ホテル・レストラン」（9.4%）の構成比が全国平均（5.3%）を上回っている。

図表 24-5 地域別にみた名目 GDP の産業別構成比（各地域を 100%とした場合）



	全国	バンコク 首都圏	中部	東部	西部	北部	東北	南部
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
第1次産業	8.6%	0.6%	7.8%	6.1%	23.2%	24.9%	21.0%	24.3%
農林水産業	8.6%	0.6%	7.8%	6.1%	23.2%	24.9%	21.0%	24.3%
第2次産業	33.0%	23.5%	58.5%	64.8%	32.5%	24.3%	25.5%	20.5%
鉱業	2.0%	0.0%	2.2%	6.5%	1.9%	3.2%	1.0%	3.0%
製造業	25.0%	19.9%	45.9%	49.4%	19.3%	14.5%	17.1%	10.4%
公益業	3.6%	1.7%	8.6%	7.1%	7.4%	2.8%	3.3%	3.2%
(電気・ガス)	3.2%	1.3%	8.3%	6.3%	7.0%	2.3%	2.9%	3.0%
(水道)	0.4%	0.4%	0.3%	0.7%	0.4%	0.5%	0.4%	0.3%
建設業	2.4%	1.8%	1.9%	1.8%	4.0%	3.8%	4.1%	3.9%
第3次産業	58.5%	76.0%	33.6%	29.1%	44.2%	50.9%	53.6%	55.2%
卸売・小売	15.8%	20.5%	10.8%	10.9%	11.9%	12.7%	12.5%	10.9%
ホテル・レストラン	5.3%	7.5%	0.8%	2.8%	4.1%	2.4%	1.2%	9.4%
運輸・倉庫	5.0%	6.3%	4.0%	4.1%	3.6%	2.6%	2.8%	5.7%
情報・通信	2.8%	5.2%	0.5%	0.4%	0.7%	0.9%	0.7%	1.0%
金融	8.9%	12.5%	3.8%	3.0%	5.6%	7.6%	8.4%	6.8%
不動産	2.6%	2.2%	2.0%	1.5%	3.3%	3.9%	4.3%	3.5%
公共・防衛	7.5%	10.4%	5.1%	3.1%	5.9%	5.8%	5.3%	6.5%
教育・科学技術	5.9%	5.7%	4.0%	1.6%	5.2%	9.2%	12.7%	7.1%
その他	4.7%	5.7%	2.8%	1.7%	3.9%	5.7%	5.7%	4.4%

(注) 構成比が「全国」を2%ポイント上回っている産業・地域を黄色、2%ポイント下回っている産業・地域を青色でシャドーしている。

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

4. 賃金水準

2012 年末以前のタイでは、県ごとに最低賃金が異なっていた。76 県のデータが揃った 94 年 4 月時点では最高水準の県は最低水準の県の 1.22 倍だったが、両者の格差は徐々に拡大し、12 年末時点には 1.35 倍となっていた。2013 年 1 月より日額の最低賃金は一律 300 バーツ（約 1,000 円）となったものの、17 年 1 月より再び地域の格差が生じている。その後段階的に改定され、2025 年 1 月からは、日額 337~400 バーツまでの間で設定されている。

金額に関しては、県を 17 つのグループに分け、グループごとに異なる最低賃金が適用される。最高額（400 バーツ）は、プーケット、チャチュンサオ、チョンブリー、ラヨーン、スラートターニー（サムイ島郡）に適用され、最低額（337 バーツ）は、南部 3 県（ナラティワート、パッタニー、ヤラー）に適用される（図表 24-6）。

図表 24-6 県別にみた最低賃金（2025 年 1 月）

番号	最低賃金 (バーツ)	県
1	400	プーケット、チャチュンサオ、チョンブリー、ラヨーン、スラートターニー（サムイ島郡）
2	380	チェンマイ（ムアンチェンマイ郡）、ソンクラ（ハートヤイ郡）
3	372	バンコク、ナコンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプラカーン、サムットサーコン
4	359	ナコンラーチャシーマー
5	358	サムットソンクラーム
6	357	コーンケン、チェンマイ（ムアンチェンマイ郡以外）、プラーチンブリー、プラナコンシーアユタヤ、サラブリー
7	356	ロップブリー
8	355	ナコンナーヨック、スパンブリー、ノーンカーイ
9	354	クラビー、トラート
10	352	カーンチャナブリー、チャンタブリー、チェンラーイ、ターク、ナコンパノム、ブリラム、プラチュワプキーリーカン、パンガー、ピサヌローク、ムクダーハーン、サコンナコン、ソンクラ（ハートヤイ郡以外）、サケーウ、スラートターニー（サムイ島郡以外）、ウボンラーチャターニー
11	351	チュムボーン、ベッチャブリー、スリン
12	350	ナコンサワン、ヤソートン、ランブーン
13	349	カーラシン、ナコンシータマラート、ブンカーン、ベッチャブーン、ローイエット
14	348	チャイナート、チャイヤブーム、パッタルン、シンブリー、アーントーン
15	347	カンペンペット、ピチット、マハーサーラカム、メーホンソーン、ラノーン、ラーチャブリー、ランパーン、ルーイ、シーサケート、サトゥーン、スコータイ、ノーンブアランブー、アムナートチャルーン、ウドンターニー、ウッタラディット、ウタイターニー
16	345	トラン、ナーン、パヤオ、プレー、
17	337	ナラティワート、パッタニー、ヤラー

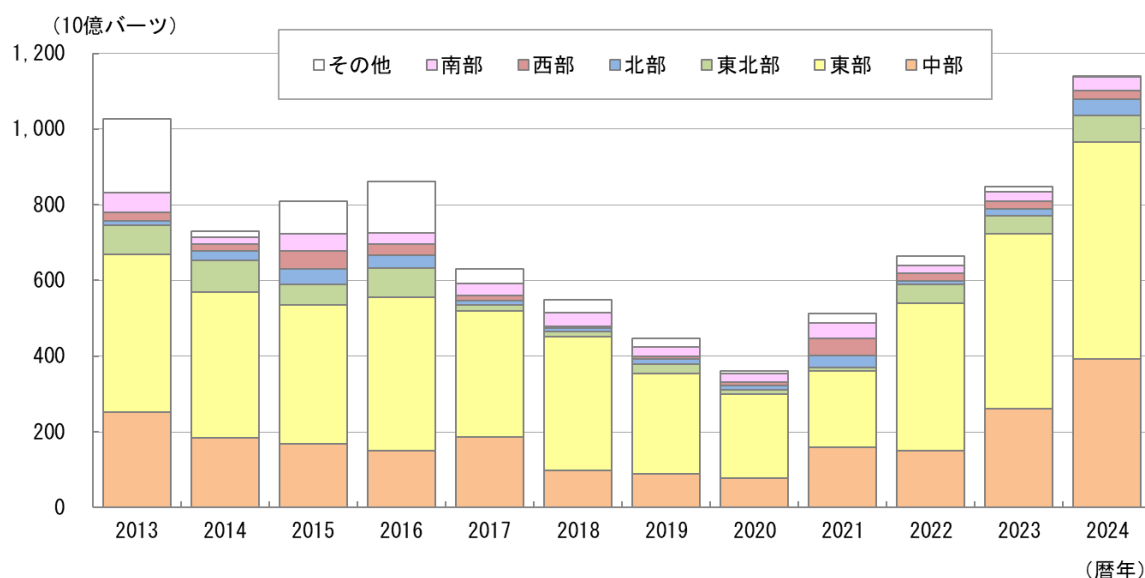
（出所）JETRO 資料より作成

5. 近年の地域別投資動向

BOI で認可された投資案件（Application Approved）の投資額を地域別にみると、バンコク首都圏を含んだ中部と、多くの工業団地がある東部に集中している。2013 年から 24 年までの 12 年間の累計では、中部は約 2 兆 1,693 億バーツと全体の 25.3%を、東部は約 4 兆 3,755 億バーツと同 51.0%を占めている。2017 年以降はタイ全体の FDI 認可額が減少傾向にあり、特に 2020 年は新型コロナウイルスの影響を受け大きく落ち込んでいるが、直近 2024 年は 1.1 兆バーツを超える水準まで回復している。

また、中部と東部以外の地域の 2013 年から 24 年までの 12 年間の累計は、東北部の比率は 6.2%、南部が 4.5%、西部が 3.0%、北部が 3.0%といずれも全体の 1 割にも満たない水準である。

図表 24-7 地域別にみた BOI 投資申請額（認可ベース）



（出所）BOI 資料より作成

6. 外資企業の関心が高い工業団地

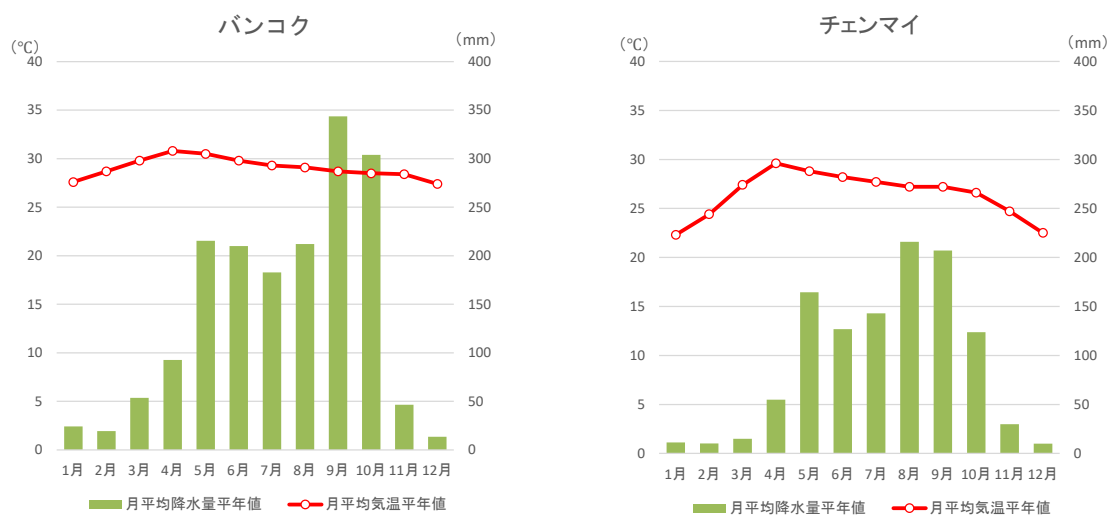
タイには現在、約 80 の工業団地が存在し、この内の 55 カ所はタイ工業団地公社（IEAT）によって開発・管理されている（民間との合弁での運用管理を含む）。これらの工業団地は、主に中部から東部にかけての地域に多く立地している。中でも東部のラヨーン、チョンブリー、チャチュンサオ、中部のアユタヤに多くの工業団地が立地している。

工業団地の中で日系企業が多いのは、アマタシティ・チョンブリー工業団地、イースタンシーボード工業団地、バンプー工業団地である。日系企業の多くは中部から東部に進出しているが、北部ランプーンの北部工業団地や東北部のナコンラーチャシーマーのスラナリ工業団地に進出している日系企業も多い。

【参考】地域別気候

タイは熱帯性モンスーン気候で、非常に暑く雨が多いが、南北の地域ではやや違いがある。北部のチェンマイは山岳地帯ということもあり、バンコクに比べると12月、1月前後は気温がやや低めで、過ごしやすくなっている。

図表 24-8 地域別の気温と降水量（平年値）



（出所）気象庁「世界の天候データツール」より作成